

科目名	薬学課題特別研究	必修	16単位
-----	----------	----	------

◎責任教員

担当教員	各研究室						
開講年度	—	配当年次	1～4年	配当学期	通年	授業方法	演習・実験

授業の概要	<p>薬学課題特別研究は、所属する研究分野の教授、准教授、講師、または助教の指導により、一定のテーマを設定し行う研究または調査活動である。この研究・調査活動を博士論文としてまとめる。各指導教員の研究指導および論文指導の内容について、テーマおよび概略を別紙に示す。</p> <p>学生は所属を希望する研究室、指導を希望する教員を選択し、面談後決定する。テーマは学生が配属研究室の指導教員との十分な話し合いによって決定する。指導教員は、課程制博士課程期間である4年間で、研究の完遂が十分可能であるように立案し指導する。研究の初期段階では、用いる手技・手法の習得が主であり個々の実験内容も指導教員が提示することになる。学年の進行につれて学生自身が検証すべき課題を発見し、問題解決のための実験方針を論理的に導き出す能力を涵養し、新規の知見を発見することにより研究成果を得る。指導教員や他の教員・学生との議論を日々行う。また、研究の途中経過は薬学演習としてのミーティングにおいてプレゼンテーションを行って批判を受けるとともに、関連学会での発表、専門雑誌への投稿を奨励する。このような研鑽を通じて、学位論文を科学的論理性をもって日本語および英語で記述する能力を養う。</p>
-------	---

授業の到達目標	<p>①大学院での主題となる研究活動を実施する。          ②関連学会で発表することができる。          ③学術論文を発表することを目標とする。          ④最終的に学位論文を執筆できる。</p>
---------	--

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	<p>事前学修：前回の研究内容を復習し、研究方法や用語の意味等を理解しておくこと。          事後学修：研究内容の疑問点をまとめ、プリント等を利用し、次回の授業までに解決しておくこと。          その他、指導教員より随時指示する。          本授業の授業時間数として当該期間に540時間以上が必要となる。1年あたり135時間以上となる。          全体の1/3の時間は予復習をもって充てることも可能である。</p>
----------------------	---

教科書	なし。
-----	-----

参考書	なし。
-----	-----

評価方法 評価基準	各種文献の調査、実験結果のまとめ、論文の投稿、学会発表、シンポジウム発表、およびゼミ形式でのプレゼンテーション、ディスカッションという研究活動を、ルーブリック評価基準に基づいて評価する。(100%)
--------------	---

その他履修上の注意事項	<p>試験やレポート等に対し、講義中での解説等のフィードバックを行う。          この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。          この科目は、2018年度入学生までは12単位、2019年度入学生からは16単位である。</p>
-------------	--

※指導教員ごとの教育内容については履修要項を参照のこと。